

## 【森林管理署長等が語る！】

会津森林管理署南会津支署 橋本俊夫

このコーナー、二度目の登場となります、南会津支署の橋本と申します。

前は、同じ福島県内でも福島市(福島森林管理署内)にある森林放射性物質汚染対策センターからでしたが、その後、本局での勤務を経て再び福島県内は南会津町へ参りました。

南会津支署は、あの♪夏が来れば思い出す遙かな尾瀬遠い空♪で親しまれている尾瀬の

福島県側、尾瀬沼ひうちがだけや燧ヶ岳等を管轄しておりますので、登山のオールドファンの方々には

「山口営林署」という当支署の旧名称が思い起こされるのではないのでしょうか。

小職も遙か昔(汗)の小学1年生の時分、家族に連れられ御池を訪れて見た、国有林の看板に描かれた「山口営林署」と「おるまい とるまい」(「草花を折らない・取らない」との意)の文字を、なぜか今も記憶しています。

因みにこの“山口”ですが、署庁舎の所在地である旧南郷村の大字名から名付けられたものです。

もう一つ蛇足ながら... 小職は、平成元年4月から2年間、旧山口営林署ひのえまた檜枝岐担当区事務所及び尾瀬担当区事務所で担当区主任(現在の森林官)として勤務しておりましたので、三十数年ぶり2度目の南会津地方での勤務であります。

さて、この歴史ある南会津支署ですが、只見町、旧南郷村、旧伊南村、旧舘岩村、檜枝岐村に所在する、約11万ha(東京23区面積の約1.8倍～因みに東京ドーム約23,300個分)を管轄しており、関東森林管理局管内最大となる管理面積を誇っています。

それでは折角の機会ですので、管内各町村を紹介いたしましょう。

### 《只見町》

まずは、北部の只見町からスタートです。

昨年3月、テレビの全国ニュースで流れましたので、御記憶の方もおられるかと思いますが、道路に架かる橋(橋長約90m)が、大規模な雪崩により押し流される事案がありました。只見町内の魚沼市へと通じる国道252号線上でのことです。

90mもある大きな橋梁がグシャグシャになって谷底へ落ちている様を見ると、雪崩の破壊力の凄さが分かります。



田子倉ダムと「只見の寝観音」

南会津地方は豪雪地帯ですが、なかでも只見町は特に積雪が多く山々も急峻なため、世界的にも珍しい「雪食作用」と呼ばれる地形が見られます。初めてこの地域を訪れた方は、「雪食作用」のことを知らなくても、他とは違った山々の景色に気付くはずです。

この地域の人々は古<sup>いにしえ</sup>から、厳しい自然環境の中で、その自然を上手く活かしながら生活しています。このような大自然と人々の暮らしの調和・共存が図られている地域として、只見町の全域（及び檜枝岐村の一部地域）がユネスコエコパークに登録されています（平成 26 年）。



“会津のmatterホルン”<sup>がもうだけ</sup> 蒲生岳と只見線

因みにユネスコエコパーク（生物圏保存地域）とは、同じくユネスコが認定する世界自然遺産が「顕著な普遍的価値を有する自然を厳格に保護することを主目的とする」のに対し、「自然保護と地域の人々の生活（人間の干渉を含む生態系の保全と経済社会活動）とが両立した持続的な発展を目指す」（文部科学省 HP より）こととするものであり、日本ではこれまでに、10 の地域が認定されています。

また只見川水系の豊富な水を利用するためのダム及び水力発電所が、戦前戦後を通じて多数建設され、現在も、東北地方のみならず、関東地方や新潟への電力供給の一端を担っています。中でも田子倉ダムは、昭和 35 年に完成した国内屈指の水力発電用ダムで、出力 400,000kw を誇っており、ダム湖百選に選ばれた田子倉湖とともに雄大な風景を形作っています。

ところで、鉄道ファンのみならず、車両が橋梁を渡るポスターで御存知の方も多い JR 只見線は、平成 23 年 7 月の新潟・福島豪雨災害で甚大な被害を受けました。関係機関の御尽力により昨年 10 月、11 年ぶりに全線が再開通し、多くの観光客が訪れ、町に再び活気を取り戻しています。

このような只見町は、まさに「自然首都」とのキャッチフレーズそのものの自然豊かな豪雪地帯の町です。

#### 《檜枝岐村》

続いては、南部の檜枝岐村です。

冒頭でも触れましたが、檜枝岐村は尾瀬の福島県側玄関口となっています。

尾瀬は、みなさま御案内のとおり高層湿原として有名なところですが、尾瀬ヶ原は群馬県（一部は福島県）に、尾瀬沼は福島県に所在しています。高山植物の宝庫ともいわれ、遅い春の雪融けとともに様々な植物が可憐な花を見せてくれ、ハイカーたちの目を楽しませてくれます。

そのような尾瀬ですが、戦前には発電と利水のためのダム建設計画により水没の危機がありました。この計画は後に、水利権の問題や自然保護の観点からの反対運動により中止されましたが、これが日本における自然保護運動の原点とされています。

また、檜枝岐村の住民のほとんどの方は、「星」、「平野」、「橘」の3つの姓を名乗られています。これは祖先が平家の落人であるからといわれており、山を隔てた栃木県側、湯西川地区の平家落人伝説と繋がるものがあるのかもしれませんが。

冒頭で触れましたが、小職も平成元年度から2年度までの2年間、檜枝岐村の住民でした。当時の担当区事務所(現在は森林事務所といます。)は、既に建て替えられていますが、小職が居住していた建物は、旧式で断熱材等が使用されておらず、初めて迎える冬の夜中、あまりの寒さに頭痛で目覚め、それ以来、毛糸の帽子を被って寝るようになりました。自分の息(の水分)で、蒲団に霜が付くという経験も、今となっては懐かしい思い出です。

檜枝岐村のグルメといえば、蕎麦やハットウ(そば粉ともち米等から作られ、“御法度”が名の由来とか)が有名ですが、サンショウウオ(ハコネサンショウウオ)も忘れてはいけません。これは小職が檜枝岐村の住民であった当時の話ですが、村内の民宿等には、宿泊した客から「夕食でいただいたサンショウウオのお陰で子供の喘息が治りました」等のお礼の手紙がよく届いたそうです。斯く言う小職も(これも檜枝岐村の住民であった当時の話ですが)、身動き取れないギューギューの宴席で、目の前に山と置かれたサンショウウオの天ぷらを幾匹となく食べた翌朝のこと、寝覚めて起きようとしたところ鼻の辺りに異変が...そうです、鼻血が出ていたのです!サンショウウオの滋養強壮作用は、“間違いない”と確信した瞬間でした。



尾瀬沼と「三本カラマツ」



大江湿原のニッコウキスゲ

## 《南会津町》

さて最後は、南会津町です。

旧南郷村、旧伊南村、旧舘岩村、旧田島町が平成18年に合併し、できた町が南会津町です。署庁舎は旧南郷村にあると冒頭でお話ししましたが、旧南郷村は、農林水産省の地理的表示(GI)保護制度に福島県内で初めて登録されたブランド“南郷トマト”発祥の地です。この南郷トマトは、甘みと酸味のバランスが素晴らしい、トマト好きにはたまらないトマトらしいトマトで、季節には遠方からもファンが買い付けに来るほどです。小職的には、アクがなく口の中が荒れないところがGood!で、気に入っています。

また、町内には4つの酒蔵(会津酒造、開当男山酒造、国権酒造、花泉酒造)があり、乾杯条例が制定されています。新年町民交歓会等懇親の場では、地酒による乾杯でスタートするのが決まりです。

どの蔵元のお酒もおいしく、甲乙付け難く種類も多いので、なかなか全種類を呑み切れませんが、赴任前に比べて明らかに日本酒の空き瓶が増えるペースが早くなりました(汗)。

スノーボードのオリンピック・ゴールドメダリストである平野歩夢選手が小学生時代に練習していたスキー場は、旧南郷村内にある会津高原南郷スキー場です。当スキー場は、シーズンになると多くのスノーボーダーやスキヤーで賑わいますし、6月にはヒメサユリ(オトメユリの別名)も可憐な花を見せてくれます。なお、南会津町には、南郷スキー場のほか、会津高原だいくらスキー場、会津高原たかつえスキー場、北日光・高畑スキー場の4つのスキー場がありますので、スキヤー、スノーボーダーのみならず、是非お越しくださいませ。

以上、駆け足で3つの町村を紹介しましたが、温泉のほか農村歌舞伎等、まだまだ書き切れない魅力が満載です。

当支署も、国有林の管理運営を通して南会津地域の振興に少しでも貢献できるよう精進して参る所存ですので、今後とも御理解、御協力のほど、よろしくお願い申し上げます。最後までお目通しいただき、誠にありがとうございました。



甘みと酸味の絶妙なバランス「南郷トマト」



南会津町の酒蔵四天王